

九電グループCSRダイジェスト2018 ハイライト



お客さま満足の
創造

電力を絶やさず安定的に お届けします

2017年度は、「平成29年7月九州北部豪雨」が発生しましたが、総力を挙げて復旧にあたり、早期に送電しました。

■平成29年7月九州北部豪雨(最大停電戸数:約6.4千戸)
九州各県から最大約1,700名を動員。停電発生(7月5日)から4日後までに、土砂崩れ等により進入が不可能な地区を除いて、高圧配電線への送電を完了



安全・安心の
追求

原子力発電所の安全確保に 万全を期します

当社の原子力発電所は、「世界でも最も厳しい水準にある新規規制基準」に適合し、安全対策の有効性が確認されています。

今後も、「福島第一原子力発電所のような事故は決して起こさない」という固い決意のもと、安全運転に万全を期するとともに、更なる安全性の向上に取り組んでいきます。

■重大事故を防ぐ5つの段階に応じた多様な安全対策を実施

①異常の発生を防ぎます

地震や津波、竜巻などの大規模な自然災害への備えを強化

②異常の拡大を防ぎます

重大事故の防止に必要な電力を確保する発電機を新たに配備

③燃料の損傷を防ぎます

燃料の冷却を確実に実施するポンプを新たに配備

④格納容器の破損を防ぎます

格納容器の冷却手段の多様化、水素濃度の低減対策を実施

⑤放射性物質の放出及び拡散を抑えます

放射性物質の放出・拡散を抑える放水砲や水中カーテンを配備



環境にやさしい
企業活動

再生可能エネルギーを 積極的に開発・導入しています

九電グループの開発目標の達成に向け、グループ一体となって、再生可能エネルギーを積極的に開発・導入しています。

開発目標: 2030年度までに**400万kW**
(2018年3月末時点:195万kW)

地熱発電



八丁原発電所(大分県)

風力発電



長島風力発電所(鹿児島県)

水力発電



上椎葉発電所(宮崎県)

太陽光発電



大村メガソーラー発電所(長崎県)



地域・社会との
共生

九州の明るい未来のために、 活動します

「九電みらい財団」では、九電グループの思い「ずっと先まで、明るくしたい。」を実現していくため、環境活動・次世代育成支援活動を積極的に行っています。

■環境保全活動: 坊ガツル湿原(大分県)一帯の自然環境保全

■環境教育活動: 社有林を活用した次世代向け環境教育



坊ガツル湿原/野焼き活動



林業体験

■次世代育成支援活動: 地域団体の活動への助成



ステージ中津491(大分)
～商店街での「職人フェスティバル」の開催～



ぼちぼちの会(福岡)
～親子レクリエーションを通じた不登校などの課題解決～

2017 年度 実績	環境保全活動	活動5回、約500名参加
	環境教育活動	活動24回、約1,300名参加
	次世代育成支援活動	20団体に助成



安全・安心の
追求

原子力発電所の安全確保に万全を期します

関連するSDGs



当社の原子力発電所は、「**世界でも最も厳しい水準にある新規制基準**」に適合し、安全対策の有効性が確認されています。
今後も、「**福島第一原子力発電所のような事故は決して起こさない**」という固い決意のもと、原子力発電所の安全運転に万全を期すとともに、更なる安全性・信頼性向上への取り組みを自主的かつ継続的に行っていきます。

■ 重大事故を防ぐため、5つの段階に応じた多様な安全対策を実施

① 異常の発生を防ぎます

地震や津波、竜巻などの大規模な自然災害に対する備えを強化

② 異常の拡大を防ぎます

重大事故の防止に必要な電力を確保するため、多種多様な発電機を新たに配備

③ 燃料の損傷を防ぎます

燃料の冷却を確実に実施するため、多種多様なポンプを新たに配備

④ 格納容器の破損を防ぎます

格納容器の冷却手段の多様化、水素濃度の低減対策を実施

⑤ 放射性物質の放出及び拡散を抑えます

放射性物質の放出、拡散を抑えるため、放水砲や水中カーテンを配備

〔玄海原子力発電所の安全対策(概要)〕

① 防火帯

樹木を伐採しモルタルを吹付け

発電所方面→

② 高圧発電機車



② 大容量空冷式発電機



③④ ポンプ車



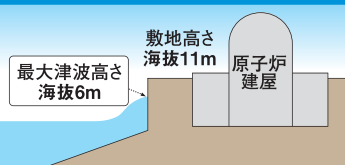
① 資機材を守る保管庫を設置



⑤ 放水砲



① 発電所敷地は、想定される最大の津波より高い位置に



④ 水素除去装置



⑤ 水中カーテン

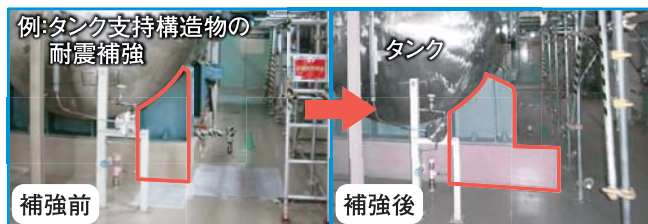


② 具体的にどのような安全対策を行っているの? 詳しくはウラ面へ

当社原子力発電所における主な安全対策(玄海原子力発電所における取組み事例)

1 異常の発生を防ぎます

地震や津波、竜巻などの大規模な自然災害に対する備えを強化



想定される最大の
基準地震動(620ガルほか)を
踏まえた耐震対策



最大風速100m/秒の竜巻を
想定した対策



発電所周辺での森林火災の延焼を
防止する防火帯

2 異常の拡大を防ぎます

重大事故の防止に必要な電力を確保するため、多種多様な発電機を新たに配備



外部電源や非常用ディーゼル
発電機が使用できない場合の
バックアップ電源

3 燃料の損傷を防ぎます

燃料の冷却を確実に実施するため、多種多様なポンプを新たに配備



水を供給する各種ポンプが使用
できない場合に備えたポンプ車
(④の対策にも活用)

4 格納容器の 破損を防ぎます

格納容器の冷却手段の多様化、水素濃度の低減対策を実施



原子炉格納容器内での水素爆発を
防ぐ水素除去装置

5 放射性物質の放出 及び拡散を抑えます

放射性物質の放出、拡散を抑えるため、放水砲や水中カーテンを配備



原子炉格納容器の破損箇所に水を直接
噴射し、放射性物質の放出を抑制する
放水砲

放射性物質の前面海域への拡散を抑制
する水中カーテン

●川内原子力発電所においても、同様の安全対策に取り組んでいます。



安全・安心の
追求

原子力発電所では、万が一の重大事故に 備えた訓練を繰り返し行っています

関連するSDGs



万が一の重大事故等が発生した場合に、
あらゆる事象に速やかに対応するため、
さまざまな訓練を繰り返し行い、対応能力の向上に努めています。
また、国や自治体が主催する原子力防災訓練に参加するなど、
関係機関との連携を図っています。

電源供給訓練



高圧発電機車の電源ケーブル接続

冷却水供給訓練



移動式大容量ポンプ車の設置

放射性物質拡散抑制訓練



放水砲による放水

緊急時の運転操作訓練



シミュレータを使用した運転操作

原子力防災訓練



代替緊急時対策所での自治体との通報連絡訓練

住民の皆さまの避難等に対して最大限の支援を行っていきます。

【原子力防災支援に係る主な取組み】

- ・PAZ※内等の要支援者の避難手段として不足する福祉車両やバス及び運転手等の確保
- ・避難退域時検査・除染、緊急時モニタリングの要員及び資機材の支援
- ・放射線防護対策施設・避難所等への生活物資（保存食、寝具等）の備蓄支援
- ・オフサイトセンター、放射線防護対策施設、モニタリングポストへの燃料補給支援

※原子力災害に関し、予防的防護措置を準備する区域。
発電所から概ね5km(目安)の範囲



福祉車両（ストレッチャー仕様）



福祉車両（車椅子仕様）



避難退域時検査・除染



生活物資の備蓄支援



原子力発電所で使い終わった燃料はどうなるの？

詳しくはウラ面へ



安全・安心の
追求

高レベル放射性廃棄物の地層処分について、 地域の皆さまの疑問や不安の声にお応えしていきます

関連するSDGs



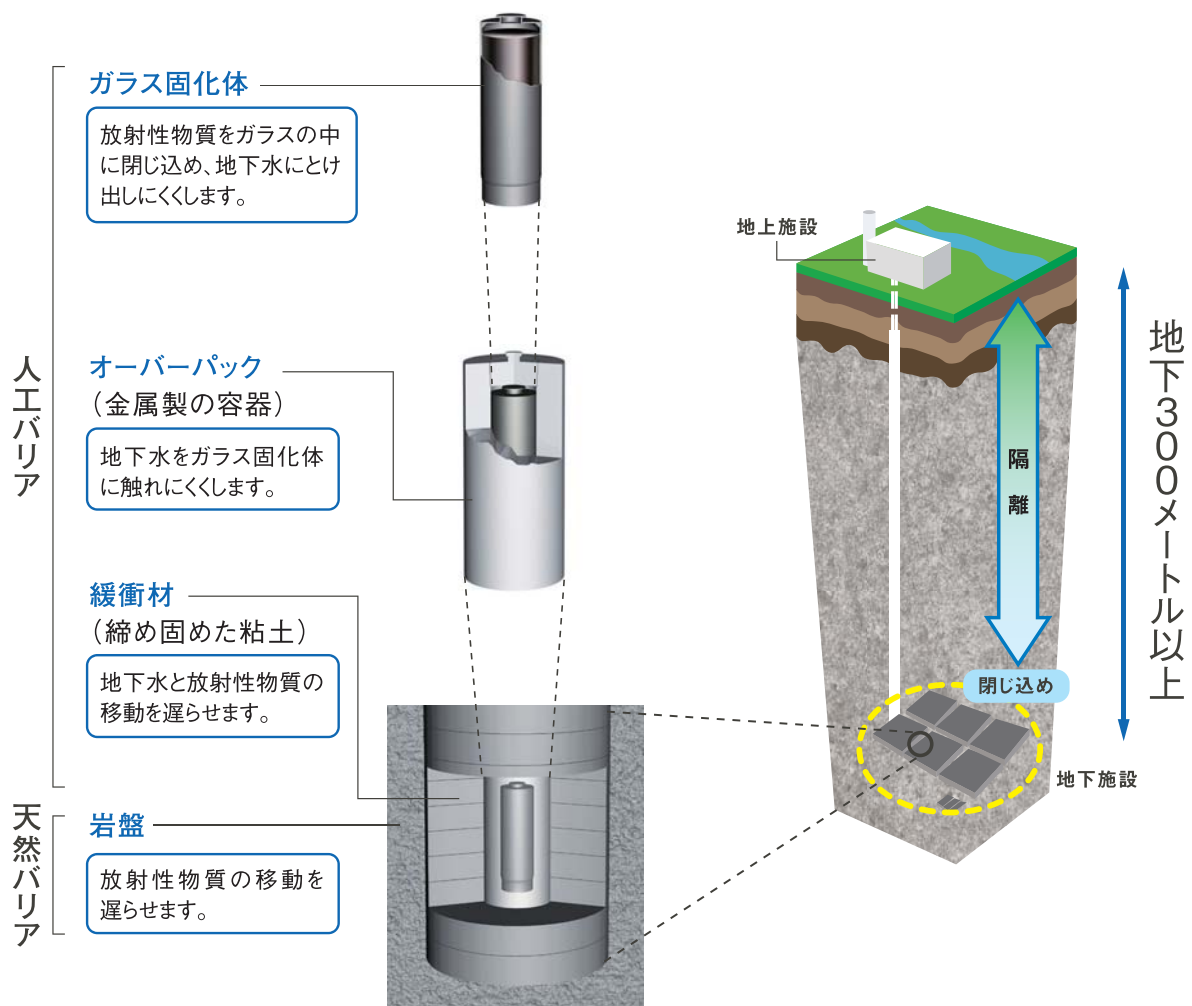
使い終わった燃料は、再処理して、
ウランやプルトニウムを取り出し、燃料として利用することにしています。
その過程で発生する高レベル放射性廃棄物は、何重ものバリアを施し、
地下深い地層に安全に処分されることになっています。

放射性物質を閉じ込める多重のバリア

日本では、再処理の過程で生じる高レベル放射性廃液を、とろけたガラスと混ぜ合わせて安定した形態にして、地下300m以上の深い地層に処分することを基本方針としており、国際的にも、最も有望な方法として、諸外国で取り組みが進められています。

2017年7月、地層処分の実現への第一歩として、国は、地層処分の仕組みや日本の地質環境等について国民の理解を深めていくために、「科学的特性マップ」を提示しました。国と原子力発電環境整備機構(NUMO)は、「科学的特性マップ」の提示をきっかけに、全国各地できめ細やかな対話活動を丁寧に進めていくこととしています。

当社としても、廃棄物の発生者として基本的な責任を有する立場から、地域の皆さまの疑問や不安の声にお応えできるよう、国やNUMOと連携を図りながら、理解活動に積極的に取り組んでいきます。



出典：原子力発電環境整備機構ホームページをもとに作成



お客さまのニーズや課題にお応えする
価値ある商品・サービスを提供します

関連するSDGs



お客さまの生活や企業の経済活動を支えるため、 電力を絶やさず安定的にお届けします。

2017年度は、「平成29年7月九州北部豪雨」が発生しましたが、
総力を挙げて復旧にあたり、早期に送電しました。

[平成29年7月九州北部豪雨] (最大停電戸数:約6.4千戸)

九州各県から最大約1,700名を動員し、停電発生(7月5日)から4日後までに、土砂崩れ等により進入が不可能な地区を除いて、高圧配電線への送電を完了しました。



配電線路の新設



土砂崩れによる電柱流出に伴う配電線路復旧



進入困難地区での配電線路復旧



夜間における配電線路復旧

◆九州北部豪雨の復旧支援として、 完全自己処理型水洗トイレを設置

グループ会社のニシム電子工業(株)では、朝倉市杷木町老人福祉センターの敷地内(災害復旧に関わる団体のボランティア集結地点)に完全自己処理型水洗トイレ「トワイレ」を設置しました。設置から3ヶ月間でボランティア参加者など約1,800名の方にご利用いただくとともに、多くの方から「衛生的で使いやすい」との声をいただきました。



水道・電気などのインフラが不要で、汚泥も発生しない
完全自己処理型水洗トイレ「トワイレ」

① この他にどのような取り組みを行っているの？

詳しくはウラ面へ

お客さまのニーズにお応えするサービスを展開しています

お客さまが安心して暮らせる毎日をサポートする「九電あんしんサポート」を展開しており、「子育てサポート」など、さまざまなサポートをご用意しています。

ママもパパも（あんしん） 子育てサポート

「離乳食」「アレルギー」等の子育てに役立つ情報をお届け。「親子クッキング」「工作」等のイベントでお子さまの食育・知育をサポートします。

九州各地の
イベント情報も
お知らせ!



詳しくはこちら▶



会員サイト「キレイライフプラス」では、「電気料金やご使用量の照会」、他のご家庭とご使用量を比較する「省エネランキング」等の便利なサービスを提供しています。

キレイライフプラス

詳しくはこちら▶



電気料金・ご使用量が
いつでも見える!

最適料金プランを
メールでお知らせ!

省エネランキングで
他のお客さまと使用量を比較

使用量超過メールで
使い過ぎをお知らせ! (※)

※スマートメーターのお客さま向けのサービスです。

九電グループ全体のイノベーションを推進しています

九電グループ全体のイノベーションを推進し、新たな事業やサービスを生み出すためのプロジェクト「KYUDEN i-PROJECT」に取り組んでいます。

九電グループの基盤である九州において、イノベーションへの取組みを通し、お客さまや社会の課題を解決することで、お客さまの快適で環境に優しい毎日に貢献していきます。

プロジェクトにおける具体的アクション

ACTION 1

イノベーション創発ワークショップ

・九電グループ横断で、新たな事業・サービスについてワークショップ形式で議論・検討しています。

ACTION 2

「i-Challenge」:ビジネスアイデアの公募

・事業横断的なアイデアや既存のサービスの組合せなど、様々な観点から生まれる事業・サービスのアイデアをグループ全体から公募しました。

ACTION 3

他企業等との共創(オープンイノベーション)

・他企業や大学などと企業の枠を越えた共創を通して、新たな事業・サービスを生み出していきます。

KYUDEN i-PROJECT
わたしが動く チームが生まれる 九州から変える



イノベーション創発ワークショップ

『会社の枠を越え』イノベーションを推進しています。



私は、「KYUDEN i-PROJECT」イノベーション創発ワークショップへの参加をきっかけに、グループ会社から出向し、事業創造支援グループのメンバーとして活動しています。当グループは、メンバーが互いに個性を認め、補い合いながら、チームを作り、創造性とスピード感を持って、アイデアの事業化へ向けて邁進しています。会社の枠を越え、地域の皆さまのために、九州から世界へ向けた明るい未来を創っていきることが何よりも幸せです。



コーポレート戦略部門 わきやま やすこ
事業創造支援グループ 脇山 康子
(九電産業株式会社 環境部より出向)



安全・安心の
追求

設備の安全対策や作業者の安全確保を徹底し、 安全・安心を最優先した事業活動を行います

関連するSDGs



お客さまや地域の皆さまの安全を確保するため、 感電事故の発生防止対策に取り組んでいます。

■電力設備への接触防止対策

- ▶ 鉄塔への昇塔防止や発電所・変電所への侵入防止
昇塔防止装置や外柵、注意喚起標識を設置
- ▶ クレーン車等の重機や釣竿などの送電線への接触防止
河川横断部などに注意喚起標識を設置



昇塔防止装置



注意喚起標識

■電力設備工事における安全対策

- ▶ 道路周辺での工事
落下物による公衆災害等を防止するネットを設置
- ▶ 電線工事
作業者の接触による感電等の注意喚起・防止のためのシート等を取付



落下防止ネット

■ご家庭での電気の安全な使い方の注意喚起

- ▶ 電気のお役立ち情報をご紹介します「電気知っ得本」や
ホームページでお知らせ

「電気知っ得本」

電気の安全な使い方



「電気知っ得本」は
こちら



ホームページは
こちら

■ご家庭の電気設備の安全調査

当社が委託する九州電気保安協会及び各県の電気工事業工業組合の調査員が、お客さま宅を訪問し、電気設備の安全調査を行っています(4年に1回)。

安全調査では、漏電調査や分電盤のネジの緩みの点検のほか、感震ブレーカー※による電気火災対策をお知らせするなど、電気を安心してご使用いただけるよう努めています。

※地震を感知すると自動的に電気を止めるブレーカー



分電盤の点検



調査を装ってお客さま宅を訪問し調査料をだまし取るなど、「**ニセ調査員**」による**詐欺**が発生しています。

当社が委託する安全調査では料金を請求することはありません。

少しでも不審に感じられたときは、身分証明書の提示を求めるとともに、お近くの九州電力までご連絡ください。

② この他にどのような取り組みを行っているの？

詳しくはウラ面へ

九電グループ一丸となって安全の取組みを推進しています。

「経営の基盤である安全」に関わる取組みを一丸となって推進するため、2017年4月に、社長を委員長とする「全社安全推進委員会」を設置し、同年12月、「九電グループが目指す安全とその基本方針」を示した「九電グループ安全行動憲章」などを制定しました。

これらの内容を協力会社も含めて共有し、永続的な理解・浸透に努めていきます。そして、「安全を最優先する風土・文化」を組織のDNAとして刻み込み、世代を越えてつなぎ続けていくことができる九電グループを目指します。

「九電グループ安全行動憲章」と、「九電グループの安全の誓い」、「一人ひとりの安全行動3か条」

九電グループ

〔九電グループ安全行動憲章〕

九電グループは、事業に関わるすべての人たちの安全を守り、その先にある安心と信頼につなげることを目指します。

このため、労働安全、設備保安の観点から、経営の基盤である安全を最優先する企業活動に向け、次の5つの行動を徹底します。

- | | | |
|------------|-------------|---------------|
| 1 安全の創造と進化 | 2 声の反映と情報発信 | 3 風通しの良い環境づくり |
| 4 自己研鑽 | 5 DNAの伝承 | |

職 場

〔九電グループの安全の誓い〕

「いってきます」、「おかえりなさい」、そんな言葉を交わせる安心した毎日を守り続けます。そのために、一人ひとりの強い決意とゆるぎないチームワークで、常に安全について考え行動します。

個 人

〔一人ひとりの安全行動3か条〕

- 1 「学び、守る」安全行動の本質を学び、確実に守ります
- 2 「気づく」地域や仲間の声を聴き、議論し、新たな危険に気づきます
- 3 「進化」気づきを安全行動に進化させます

安全行動憲章等の理解・浸透に向けた取組み

安全行動憲章の制定は、九電グループの安全文化醸成に向けた取組みの新たなスタートであり、社員はもちろん、協力会社を含めた理解・浸透に努めています。

その一環として、経営トップ層と現場社員が安全・安心についてディスカッションする「安全懇談会」を実施しています。



「安全懇談会」の様子

九電グループのワークショップで培った経験を、自社の安全活動に活かしていきます。



九州林産(株)では、「緑豊かな環境づくり」という理念のもと、緑化工事や九州電力の社有林の管理などを行っています。特に、安全の取組みには力を入れており、全事業所での経営層による安全パトロールなどを行っています。また、「九電グループ安全行動憲章」の理解・浸透にも、会社を挙げて取り組んでいます。

私自身も、九電グループの安全ワークショップに参加し、「九電グループ安全行動憲章」の策定に直接携わりました。その中で、九州電力やグループ会社の方々と意見を交わしながら安全に対する思いを以前にも増して強くもつことができました。この経験を活かし、今まで以上に安全活動を推進していきます。



九州林産株式会社 総務部 総務グループ長 き どう ひろたか
木道 浩隆



環境にやさしい
企業活動

地球環境の保全や地域環境との共生 に向けた取組みを推進します

関連するSDGs



地球温暖化防止に貢献するため、 再生可能エネルギーを積極的に開発・導入 しています。

九電グループの再生可能エネルギー開発目標:2030年度までに400万kW (2018年3月末時点:195万kW)

日本最大規模の
地熱発電所



八丁原発電所(大分県)

地熱発電

マグマで熱せられた
地下水をくみ上げ、
そこから取り出した
蒸気力で発電

日本初の大規模
アーチ式ダム



上椎葉発電所(宮崎県)

水力発電

ダムに貯めた水が低いところへ
落ちる力を利用して水車を回し発電



山川バイオナリー発電所(鹿児島県)

地熱バイオナリー発電

沸点の低い媒体を利用し、従来の地熱
発電では利用できない低温エネルギーを
熱源として発電

2018年2月に
運転開始



みやざきバイオマスリサイクル発電所

バイオマス発電

バイオマス(植物や動物のふんなど)を燃料
として発電



長島風力発電所(鹿児島県)

風力発電

風の力で風車を回して発電



大村メガソーラー発電所(長崎県)

太陽光発電

太陽光が当たると発電する
太陽電池を利用して発電

◆第27回地球環境大賞「経済産業大臣賞」を受賞

2018年2月、第27回地球環境大賞※において、当社初となる「経済産業大臣賞」を受賞しました。これは、再生可能エネルギーの積極的な導入や、「九電みらい財団」による地域と協働した環境保全活動など、当社グループの取組みが高く評価されたものです。

※主 催:フジサンケイグループ
後 援:経済産業省、環境省、文部科学省、国土交通省、
農林水産省、(一財)日本経済団体連合会
特別協力:(公財)世界自然保護基金(WWF)ジャパン

第27回
地球環境大賞
Since 1992



秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもとでの授賞式

① この他にどのような取組みを行っているの?

詳しくはウラ面へ

国外においても電力安定供給と地球環境保全に貢献しています

九電グループの総合力を活かした海外コンサルティングを通じて、電力安定供給や地球環境保全、人材育成に貢献しています。

2017年度は、当社の特徴である離島電力供給や地熱発電の経験を活かし、キューバの離島における再生可能エネルギー導入やケニアの地熱発電の運営改善のための調査を行いました。



キューバ電力セクター向け技術セミナー(当社総合研究所にて)



ケニア・オルカリア地熱発電所の調査

原子力発電の活用によりCO₂排出量を抑制しています

2017年度は、2016年度に引き続き、年間を通じて川内原子力発電所の安定運転を行いました。これによるCO₂排出抑制量は、運転を再開した2015年度(1号機:9月、2号機:11月)と比べると、約314万トン程度*と試算しており、2015年度の総排出量の約8%にあたります。

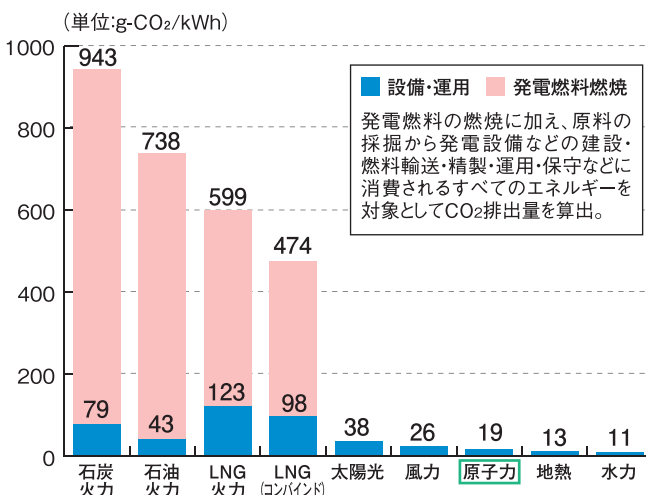
原子力発電は、電力の安定供給や発電コストの低減に加え、CO₂排出抑制面でも非常に優れた電源であり、今後も、安全確保を大前提に活用していきます。

※2016年度の当社販売電力量あたりCO₂排出量(調整後)を用いて試算



川内原子力発電所

〔日本の電源別のCO₂排出量〕



出典:電力中央研究所報告書をもとに作成

◆環境コミュニケーション大賞「優秀賞」「優良賞」を受賞(グループ会社)

2018年2月、第21回環境コミュニケーション大賞*の環境活動レポート部門において、グループ会社の2社が受賞しました。

九州林産(株)の「環境活動レポート2017」は、環境会計を使って、環境活動について定量的に記載した点などが評価され、大賞に次ぐ優秀賞を受賞しました。

また、光洋電器工業(株)の「エコアクション21環境活動レポート」は、グラフや写真などが多用され全体的に読みやすい点などが評価され、優秀賞に次ぐ優良賞を受賞しました。

※主催：環境省、(一財)地球・人間環境フォーラム



九州林産(株)
「環境活動レポート2017」



光洋電器工業(株)
「エコアクション21
環境活動レポート」



誠実で公正な
事業運営

一人ひとりが高いコンプライアンス意識をもち、 誠実で公正な事業運営を行います

関連するSDGs



皆さまから信頼される企業であり続けるため、 社員のコンプライアンス意識を高める 取り組みを行っています。

〔主な取り組み〕

●コンプライアンス研修・勉強会

- ・社員が主体的に考え、日常の行動につなげていくための研修
(身近な事例を題材としたグループ討議など)
- ・実務担当者向けの勉強会

●法令等の情報共有

- ・法令や条例等の改正情報の収集
- ・社内イントラネット等を通じた情報共有

●法務サポート

- ・法律相談・契約書審査の実施
- ・法令チェックリスト等の業務点検ツールの整備



コンプライアンス研修



コンプライアンス情報を共有する「コンプラネット」

◆海外事業の業務特性に合わせたコンプライアンス研修の実施

海外エネルギー事業などを行うグループ会社の(株)キューデン・インターナショナルでは、全従業員を対象に、海外事業の業務特性を考慮した「海外事業におけるコンプライアンス

行動指針」を活用した研修を行っています。

2017年度は計3回実施し、約60名の役員・従業員が受講しました。

●海外事業従事者の基本行動指針の6つの柱

キーワード(6つの柱)		主な行動
Diligence	法令の遵守	・当該国法令内容を常時チェック
Honesty	社外関係者との誠実な対応	・贈収賄や税制の規定が国ごとに異なることを認識
Prudence	情報の適正な管理	・重要性に応じて守秘義務契約を締結
Trust	海外進出地域との信頼関係	・人権、宗教などによる差別や偏見を排除
Safety	安全の確保	・緊急時の連絡体制や危機管理体制を常時整備
Solidarity	健全な労働環境の構築	・共同事業者や現地採用社員との相互信頼・連帯意識を醸成

① この他にどのような取り組みを行っているの？

詳しくはウラ面へ

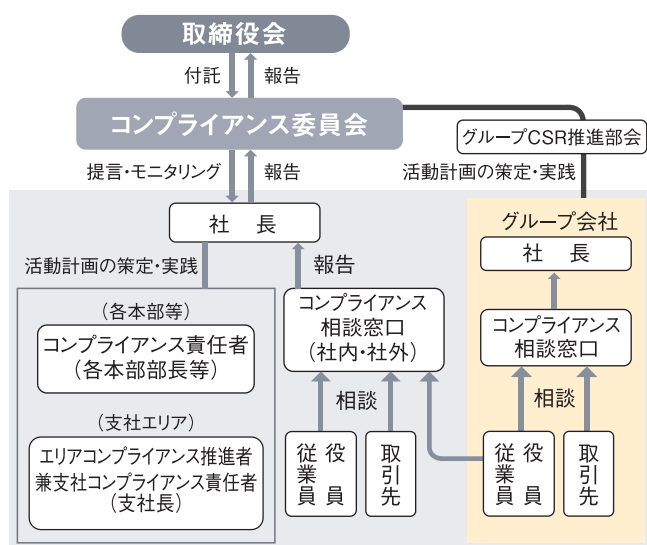
コンプライアンスを推進する体制を整備しています

社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」のもと、業務執行機関の長をコンプライアンス責任者として活動計画を实践しており、また、社内外にコンプライアンス相談窓口を設置するなど、推進体制を整備しています。

委員会では、コンプライアンス推進活動に関する提言やモニタリングを行い、提言内容は、当社グループ全体の取組みに反映しています。

また、グループ会社の指導・支援に関する管理箇所の役割を明確化するなど、当社グループ全体での推進体制の強化を図っています。

〔当社グループのコンプライアンス推進体制(概要)〕



サプライチェーンと一体となったCSR経営を推進しています

資機材や燃料の調達においては、「資機材調達基本方針」「燃料調達基本方針」を制定し、コンプライアンスはもちろん、安全確保や環境への配慮など、CSRに配慮した調達活動に取り組んでいます。

また、2017年度には、サプライチェーン全体でのCSR経営推進を強化するため、主要なお取引先に対してCSRに関するアンケート調査を行い、お取引先のニーズに応じて情報提供を行いました。

〔「資機材調達基本方針」「燃料調達基本方針」(項目)〕

- 1 オープンな調達
- 2 公平・公正な対応
- 3 法令・社会規範の遵守
- 4 反社会的勢力との関係遮断
- 5 環境への配慮
- 6 安全の確保
- 7 情報セキュリティの徹底と個人情報の保護
- 8 契約の遵守と誠実な履行
- 9 コミュニケーションの推進と相互信頼の構築
- 10 価値の創造
- 11 地域・社会への貢献

情報セキュリティの確保やコンプライアンスの推進に継続して取り組んでいます。

当社は、企業やご家庭向けのインターネットサービス「BBIQ」等の通信事業を展開しています。お預かりしているお客さま情報を大切に取り扱いとともに、通信事業者として「通信の秘密」を厳正に管理するため、従業員一人ひとりが情報セキュリティについて正しく理解し、実践していくよう教育を行っています。

また、社員へのアンケート調査で、コンプライアンスに関する会社の取組みへの評価や意識の浸透度合いを確認し活動に反映するなど、今後も、「わたしたちの事業活動は、地域・社会の信頼や共感の上に成り立つ」との認識のもと、継続的な取組みを推進していきます。



株式会社QTnet のだ しゅんすけ
総務グループ 副長 野田 俊輔



社会との真摯な
コミュニケーション

皆さまとのコミュニケーションを積極的に推進します

関連するSDGs



当社に対するご意見をお聴きし、 当社の事業活動をお伝えするため、お客さまや地域の皆さまとの フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーション活動

を推進しています。 2017年度：延べ約12万人の方々とのコミュニケーションを実施

訪問活動



お客さまをご訪問のうえ、当社の事業活動についてご説明

お客さまとの対話の会



さまざまな立場の方にご参加いただき、
いただいたご意見・ご要望を、事業活動に反映

出前授業



小・中学校、高校等を訪問して、電気や環境、
エネルギーについての授業を実施

事業所オープンデー



地域のお客さまからの日頃のご愛顧に感謝の
気持ちをお伝えするため、九州各地の事業所
で、工夫をこらしたさまざまなイベントを開催

地域の皆さまとの協働イベント



地域の皆さまと協働で、地域の活性化や課題
解決につながるイベントを開催

◆原子力発電への不安や疑問に お応えするコミュニケーション活動

原子力にリスクがあることを前提として、地域の皆さまの「思い」を丁寧
にお聴きし、リスクの共有を図る「リスクコミュニケーション」に取り組んで
います。

さまざまなコミュニケーション活動の中で、地域の皆さまの不安や疑問の
声を丁寧にお聴きし、いただいた声については、経営層を含む社内で共有
し、地域の皆さまが「安全である」「安心できる」と感じられる取組みにつな
げていきます。



① この他にどのような取組みを行っているの？

詳しくはウラ面へ

積極的な情報発信

テレビやホームページ、SNSなど、さまざまなメディアを通じて、事業活動を積極的に発信しています。

非常災害時には、フェイスブックで復旧作業状況を発信している他、「九州電力携帯メールサービス」では、非常災害時だけでなく突発的に発生した停電時においても停電

戸数や復旧見込み等をメール配信するなど、タイムリーに情報を発信しています。

また、生活情報誌「みらいと」を発行し、お客さまの暮らしに役立つ省エネ、家事などの情報を発信しています。
(配布は一部地域。当社HPにも掲載しています。)



公式Facebookページでは、非常災害の復旧情報の他、当社の事業活動を広く発信しています。

公式Facebook
ページはこちら



「携帯メールサービス」の
ご登録はこちら



2018年4月に公式Instagramページ開設。
「九州の夜景・灯りのある風景」などを
テーマとした写真をお届けします。

公式Instagram
ページはこちら



「みらいと
(Web版)」
はこちら

わかりやすい情報発信

電力会社として初めて、情報コミュニケーションをわかりやすく改善する技術(UCD:ユニバーサルコミュニケーションデザイン)を導入し、パンフレットの作成などにおける「情報品質」の向上や「わかりやすさ」の技術習得に取り組んでいます。

「わかりやすさ」の技術習得

広報部門・営業部門等の社員が、UCDを推進する人材育成のための認定資格「UCDA認定2級」資格を取得



その取り組みが評価され、2017年11月、(一社)ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会(UCDA※)が主催する「UCDAアワード2017」において、実行委員会特別表彰を受賞しました。

※UCDA:「見やすい、わかりやすい、伝わりやすい」情報コミュニケーションの実現を目指して、「わかりやすさ」の基準をつくり、「わかりやすさ」の認証を行っている団体



「UCDAアワード2017」
実行委員会特別表彰受賞

◆施設見学を通じたコミュニケーション活動

グループ会社の(株)九電ハイテックでは、同社が設備保全を行う水力発電所等の施設見学を通じて、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを推進しています。

2017年度は、鹿児島県の国分変電所・小鹿野発電所への高校生の職場体験学習受入れなど、約450名の方々に施設を見学していただきました。



高校生の職場体験学習受入れの様子



環境活動や次世代育成支援活動、各地域の課題解決活動に重点的に取り組みます

関連するSDGs



『九電みらい財団』では九電グループの思い「ずっと先まで、明るくしたい。」を

実現していくため、環境活動・次世代育成支援活動を積極的に行っています。

2017年度には、活動が評価され、2つの賞を受賞しました。

[裏面下段参照]

〔「九電みらい財団」の情報発信〕

ホームページ ▶



◀ Facebook

Instagram ▶



■環境活動

〔環境保全〕

大分県竹田市にある坊ガツル湿原
一帯の自然環境を守り続けるため、野
焼きや外来植物駆除、ミヤマキリシマ
(希少植物)の植生保護などの活動を
地域の方々と協働で行っています。

2017年度：活動5回、約500名参加



坊ガツル湿原/野焼き活動(8~3月)



平治岳/植生保護活動(5月、10月)



平治岳に咲くミヤマキリシマと坊ガツル湿原(6月)

〔環境教育〕

大分県由布市にある社有林「くじゅう
九電の森」で、小中学生を対象に、
森の役割を学ぶ講座や、林業体験、
森林観察などを行っています。

2017年度：活動24回、約1,300名参加



林業体験



森林観察

■次世代育成支援活動

子どもたちの健やかな成長を応援するため、NPOなどの団体が取り組む
次世代育成支援活動への助成を行っています。

2017年度：20団体に助成

助成団体の活動紹介(ステージ中津491)

地域おこしボランティア団体の「ステージ中津491」は、子どもたちに
ものづくりの面白さを伝えるため、商店街で「職人フェスティバル」という
イベントを開催しています。

2017年は、木工、革細工から和菓子づくりまで、過去最多の64の
職人体験ブースを設置。当日は2,000名ほどの来場者であふれ、各ブース
では、子どもたちが真剣な目つきで作業している姿が見られました。



① この他にどのような取り組みを行っているの？

詳しくはウラ面へ

九州各地の森で 「きゅうでん プレイフォレスト」を 行っています

子どもたちの環境を大切にする心を育むため、自然体験型の環境イベント「きゅうでん プレイフォレスト」を2016年度から行っています。

環境団体や企業の皆さまとともに、子どもたちがワクワクするようなブースを用意し、森の中で楽しみながら、自然の大切さを学んでもらっています。

今後も、九州のいろいろな森で開催していく予定です。

ホームページでご案内しますので、ぜひご参加ください。

2017年度：13回開催、約6,600名参加



ロープで木に登る「ツリーイング」



「プレイフォレスト」の
ホームページはこちら



間伐材を使った「マイ箸づくり」

地域の皆さまと協力して 地域課題の解決に取り組む 「こらぼらQでん」を行っています

2017年10月、佐賀駅北側をもっと活気ある町にしたいという地元の熱い想いを受け、周辺の企業やお店の方々と一緒に、「第3回 駅北く～よかFES」を開催しました。

当社グループからは、九電産業(株)、(株)QTnet、ニシム電子工業(株)も参加。高校生による吹奏楽の演奏、ミニSLの搭乗体験など、多彩なブースを出展し、あいにくの悪天候にも関わらず、約1,800名の方にご来場いただきました。

今後も、地域が抱える課題の解決に、地域の皆さまと一緒に取り組んでいきます。



2017年度：36回開催、約6,200名参加



「駅北く～よかFES」ミニSL搭乗体験



当社、(株)九電工、市民の皆さまでの
大分県竹田市岡城跡除草活動



北九州市の離島「馬島」での
海岸清掃活動

◆「九電みらい財団」の活動が2つの賞を受賞

「九電みらい財団」の活動が評価され、2017年度に2つの賞を受賞しました。

【環境保全活動】

2017年12月、地域の方々と協働で取り組んでいる「くじゅう坊ガツル湿原一帯における野焼き等の環境保全活動」が、「第6回いきものにぎわい企業活動コンテスト※」において、「公益財団法人水と緑の惑星保全機構会長賞」を受賞

※ 主催：いきものにぎわい企業活動コンテスト実行委員会
後援：環境省、農林水産省、経団連自然保護協議会

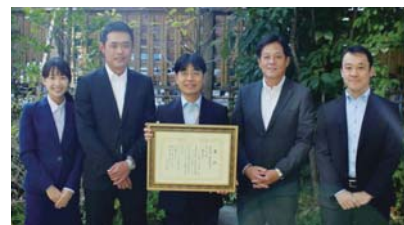
【環境教育活動】

2017年10月、「くじゅう九電の森」での環境教育の取組みが、「Forest Good 2017～間伐・間伐材利用コンクール～※」において、間伐実践・環境教育部門の「特別賞」を受賞

※ 主催：間伐・間伐材利用推進ネットワーク
後援：林野庁、間伐推進中央協議会



第6回いきものにぎわい企業活動コンテスト



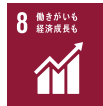
Forest Good 2017



人権尊重・
働きがいのある
職場づくり

人権を尊重し、多様な人材が健康で最大限の能力を
発揮できる職場環境をつくります

関連するSDGs



多様な人材を活かすダイバーシティ推進に、 「意識・組織風土改革」「人材育成」「働きやすさと働きがいの追求」を 柱として取り組んでいます。

【意識・組織風土改革】



ダイバーシティの意識浸透に向けた
「九州電力ダイバーシティブックレット」

【人材育成】



配電作業(女性社員)

【働きやすさと働きがいの追求】



ワークライフバランス推進に向けた
管理職セミナー

女性活躍推進については、
2018年度までの**女性管理職の新規登用数を**
過去5年間の2倍にする目標を**1年早く達成**しました。
(2009～2013年度)

◆子育て支援の取組みに関する 福岡県知事からの表彰

2017年11月、「福岡県子育て
応援宣言企業・事業所」として、
福岡県知事表彰を受賞しました。

これは、「女性従業員の育児休
業取得実績が100%であること」
などの、従業員の子育てを支援
するための当社の取組みが評価
されたものです。



子育て応援宣言登録マーク

◆グループ会社における 女性活躍推進の取組みに関する 「えるぼし」の認定

2018年2月、グループ会社の
九電産業(株)が、女性活躍推進法に
もとづく「えるぼし※」の「2つ星」
の認定を受けました。これは、九電
グループとしては当社に次ぐ2社目
の認定となります。

平均勤続年数や労働時間など、
5つの評価項目のうち4項目が評価基準を満たしました。

※女性活躍推進の優良企業を厚生労働大臣が認定



「えるぼし」認定マーク

？ この他にどのような取組みを行っているの？

詳しくはウラ面へ

健康経営を推進しています

あらゆる事業運営の基盤となる従業員の健康保持・増進に向けて健康経営を推進しています。

その取組みが評価され、2018年2月「健康経営優良法人2018(大規模法人部門)*」の認定を受けました。

また、この認定を契機に、「従業員の健康を守る」という強い決意のもと、「九州電力健康宣言」を制定しました。

※健康経営優良法人認定制度

経済産業省と日本健康会議が共同で、特に優良な健康経営を実践している法人を顕彰する制度



働き方改革を推進しています

従業員が活力を持って仕事に取り組める環境づくりや、抜本的な業務効率化による労働生産性の向上、チャレンジできる組織風土への変革を目的として、働き方改革に取り組んでいます。

〔具体的な取組み〕

1. 労働生産性向上を目指した業務効率化・組織風土変革
・経営層ワークショップの開催
・仕事の進め方に関する「全社共通ルール」の制定 など
2. 柔軟な働き方に資する制度の充実
・フレックスタイム制度適用の拡大
・テレワーク活用促進 など



経営層ワークショップ

多様な人材が活躍できる環境づくり (グループ会社)

〔柔軟な働き方の推進〕

(株)QTnetでは、仕事と家庭の両立支援などを目的に、全社員を対象としたテレワーク勤務制度「QTスマートワーク」を2016年4月から導入。

自社技術を活用して、職場のパソコンのデスクトップ環境を自宅や社外で利用することを可能とし、社員が働く場所や時間の使い方を自ら選べるようにしています。

〔障がい者の雇用促進〕

障害者雇用促進法に基づく当社の特例子会社として、(株)九州字幕放送共同制作センターを2004年に設立。

6名の障がい者の方々を雇用し(2018年6月現在)、音声聴き取りにくい聴覚障がい者や高齢者の方々がテレビを楽しむための字幕を制作しています。



障がい者の方々の働く職場
(株)九州字幕放送共同制作センター

従業員の幸せな生活のために

「健康で生き生きと働ける会社づくり」を推進します。

当社は、従業員の心身両面の健康増進に向けた取組みが評価され、「健康経営優良法人2018」に認定されました。これを契機に、4月に「九州電力健康宣言」を制定し、すべての従業員が心身ともに健康で生き生きと働ける会社づくりにこれまで以上に取り組む決意を宣言しました。

会社にとって最も大切な財産である従業員が幸せで充実した人生を送るために、私を含むグループメンバーと、産業保健スタッフが一体となって、従業員一人ひとりの健康づくりや快適に働ける職場づくりに向けた取組みを進めていきます。



人材活性化本部 安全・保健推進グループ長 高山 寛司